



ふるさと黒島！



お魚まつり特集！

みんなで思う存分楽しみました！

6日（土）に健全育成会主催で、黒島のたくさんの関係団体が協力して行う黒島恒例の「お魚まつり」。今年は、地域行事への協力と新教科「ふるさと黒島学」としてまた、「土曜授業」として学校も全職員、児童生徒で参加しました。

まず、子ども達が一番楽しみにしている「魚釣り大会」。よく釣れる「アラカブの部」「べらの部」「その他の部」で、その重さを競います。保護者や地域の方々、先生方と一緒に釣りを楽しみました。今年は、高島分校の児童も参加してくれました。



魚釣り大会



釣り大会に続いて、佐世保市水産センターの協力で稚魚の放流をしました。

黒島の主産業は漁業です。そして、限りある水産資源。放流しても、その3割しか成魚として戻ってこないことも教えてもらいました。今回は、島でよく釣れる「アラカブ」の稚魚（5cm）を放流しました。

保護者が漁師の家庭も多く、こういう体験や学びを通して、水産業の未来についても考えるきっかけになってくれればと思っています。



アラカブの稚魚放流

上手に魚をさばきました！

漁師集落の協力を得て、黒島でマグロの養殖をしている業者からマグロを購入し、児童生徒は、「マグロクイズ」でマグロのことを学びながら、マグロの解体ショーを見学します。間近で見る「本マグロ」その迫力に、毎年のことながらビックリします。後でおいしく食べられることも楽しみの一つです。

お魚さばき方教室

最後は、漁業婦人部の協力を得て「お魚さばき方教室」で、魚の3枚おろしに

挑戦します。さばいたのは

「鰺（あじ）」や「イッサキ」。漁師家庭も多く、子ども達は上手に、3枚におろしていきます。

後で、マグロと一緒に実食します。同じく、婦人部が準備された「海賊鍋」も一緒に食べます。本当に地域総出の祭りであり、この体験を通して、黒島を愛する気持ちが育まれていくものと考えます。



迫力あるマグロの解体ショー